

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2009(平成21)年4月15日 第430号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



今月の主な紙面

- (1面) ● 学校保健法を一部改正し「学校保健安全法」が施行
● 平成20年度理事会・評議員会を開催一中全会
- (2・3面(見開き))
● 連載 科学的根拠に基づいた日本人に推奨できるがん予防法 最終回
● 連載 産業医訪問 第80回
● 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 保健指導シリーズ 第12回: 医師/保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● より良い学校検診めざす
● 第43回予防医学技術研究会議開く
● ドクターミーティング・ナースミーティングを開催一中全会
● プライバシーマークを更新しました一中全会
● 東京都予防医学協会年報2009年版ができました

学校保健法を一部改正し 「学校保健安全法」が施行

児童生徒の保健・安全対策を 社会全体で進めるため法整備

近年、学校への不審者の侵入、通学路における犯罪や自然災害に児童生徒が巻き込まれる事件・事故が後を絶たない。また、子どもたちの間ではストレスによる心身の不調などメンタルヘルスに関する問題やアレルギー疾患の増加、食生活のみだれといった問題も生じており、学校内外での子どもの健康と安全の重要性が指摘されている。こうした中、昨年6月、学校保健法が一部改正され、「学校保健安全法」として今年から施行された。また、学校給食法も食育の観点を取り込んで一部が改正された。今月、昨年10月に盛岡市で開催された予防医学事業中央会の第2回全国運営会議での、文部科学省の高山研専門官(写真)による講演「学校保健法の改正」を中心に改正の概要を紹介する。

1958年に成立した学校保健法が抜本的に改正されるのは、今回が初めてのことである。当時は伝染病や歯対策などが重要な健康課題であり、対策推進の原動力として



学校保健法は大きな成果をあげてきた。しかし、社会状況の変化に伴い、学校内外において子

もが犠牲になる事件・事故の発生、ストレスなどによる心身の不調やアレルギー疾患の増加、生活習慣のみだれなど現代の学校保健は新たな課題に直面している。

こうした課題に適切に対処し、解決していくためには、学校だけでなく保護者や地域など社会全体で組織的に取り組むための法整備が必要となった。

今回の学校保健法の改正は、こうした状況に対処することを目的とした文部科学大臣の諮問を受け、昨年1月に

出された中央教育審議会の答申が骨格になっている。

高山研専門官は中央会の講演で、「改正の主なポイントは、①法律の名称が『学校保健法』から『学校保健安全法』に改称され、安全に関する詳細な規定が追加された②学校保健および学校安全に関する国および地方公共団体の責務が明記された③学校保健および学校安全に関する学校の設置者の責務が明記された④の3点である」と前置きして次のように述べた。

「学校保健に関する改正では、養護教諭を中心とした関係教職員等の連携により、必要な健康相談や保健指導を行うよう定めている。

これにより学校保健の中核としての養護教諭の役割が明確にされるとともに、養護教諭に負担が偏らないよう、担任や学校医など関係者全員で取り組むことが明記された。

また、さまざまな健康課題に対応するため、学校のみならず、必要に応じて地域の医療関係機関との連携を図り、救急処置、健康相談および保健指導を行うことが規定されている。

さらに、教室の換気、採光、照明、保温、清潔保持などの全国的な学校環境衛生基準の法制化を行うとし、校長や学校の設置者は、この基準に照らして必要な措置を講じることが定められている。

続けて高山専門官は、学校安全に関して重要と思われる点について以下のように解説した。

「学校安全では、学校の施設や設備の安全点検のみならず、通学を含めた学校生活、必要とされている。



なお学校保健と同様、児童生徒の安全を確保するため、保護者や所轄の警察、消防等の関係機関や地域ボランティア等との連携を図ることが定められている。

学校保健安全法にはこの

日常生活の安全に関する指導教育を行うなど、子どもの安全を脅かす事件・事故および自然災害に対応した総合的な学校安全計画の策定を義務付けている。

また、学校の施設・設備に支障がある場合、校長は遅滞なく改善措置を講じること、校長だけに対応が難しい場合は設置者に連絡することが規定されている。

さらに、実際に自然災害や

事故が発生した場合に対応できるように、対処要領を策定することが定められ、子どもたちの心理的ケアにも支援が必要とされている。

現在、世界的な不況が進行しており、次年度はさらに厳しい社会状況が予想されるが、役員は一致団結してこの難局を乗り越えたい。

この後、理事会は北川理事長を議長に、評議員会は齋藤道是評議員を議長に選出し、21年度の事業計画案と収支予算案、次期理事・監事・評議員候補推薦方法の審議を行い、いずれも満場一致で承認された。

平成20年度理事会・評議員会を開催

東京都予防医学協会の平成20年度第3回理事会および第2回評議員会が3月26日、東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷で開かれた。

理事会、評議員会に先立ってあいさつを行った北川照男本会理事長は、平成20年度の事業をほぼ予定通り達成できたことを報告して、関係者の理解と協力に謝意を表し、次

のよう述べた。

「本年度から始まった特定健診・特定保健指導では、労働安全衛生法に基づく定期健康診断にも特定健診が組み入れられたことにより、成人保健事業は順調に行われた。

また、がん検診では、乳がん、子宮がん、肺がんなどの検診が増加し、人間ドックの受診者数も増えている。

現在、世界的な不況が進行しており、次年度はさらに厳しい社会状況が予想されるが、役員は一致団結してこの難局を乗り越えたい。

この後、理事会は北川理事長を議長に、評議員会は齋藤道是評議員を議長に選出し、21年度の事業計画案と収支予算案、次期理事・監事・評議員候補推薦方法の審議を行い、いずれも満場一致で承認された。

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江幡良晴 三輪祐一

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

お問い合わせ・
ご相談は
(予約制)

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

心臓検診、腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会開く— 本会



心臓検診の打ち合わせ会



腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会

より良い学校検診をめざす

新年度を迎えて、小・中・高等学校では一斉に児童生徒の健康診断が始まった。これに先立ち、本会では例年、学校検診の円滑な実施を図るために、検診を担当する小児の心臓病、腎臓・糖尿病の専門医に集まってもらい、それぞれの検診の打ち合わせ会を行っている。今年も、心臓検診の打ち合わせ会を3月5日に、腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会を3月13日に開催した。打ち合わせ会には、本会の学校検診の指導と、検診で異常が見つかった子どもたちの診断や治療を担当している専門医、本会のスタッフら合わせて約60人が出席し、学校検診を行う上でのさまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

打ち合わせ会では、心臓検診、腎臓・糖尿病検診それぞれについて、2009年度の実施予定数と地区が報告され、地区別の検診実施日程などの確認が行われた他、今後の検診のあり方をめぐって、さまざまな意見交換がなされた。

今回打ち合わせ会に参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

▽心臓検診
浅井利夫(東京女子医科大)

▽腎臓・糖尿病検診
明(杏林大学医学部)、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部講師)、阿部正徳(日本医科大学)、北川照男(日本大学医学部名誉教授)

▽心臓検診
明(杏林大学医学部)、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部講師)、阿部正徳(日本医科大学)、北川照男(日本大学医学部名誉教授)

▽腎臓・糖尿病検診
明(杏林大学医学部)、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部講師)、阿部正徳(日本医科大学)、北川照男(日本大学医学部名誉教授)

立福生病院 副院長、土屋正己(つちや小児科 院長、宿谷明紀(東京慈恵会医科 大学非常勤講師)、玉置尚司(同大学診療部長)、浦上達彦(日本大学医学部講師)、齋藤宏(同大学)、大友義之(順天堂大学医学部准教授)、原聡(同大学)、田中絵里子(東京医科歯科大学)、大森多恵(都立墨田病院、亀井宏一(国立成育医療センター)、下田益弘(武蔵野赤十字病院副部長)、三浦健一郎(東京大学医学部)、高橋和浩(同大学)、西堀由紀野(杏林大学医学部)、谷田川聡也(虎の門病院)、北川照男(日本大学医学部名誉教授)

第43回 予防医学技術研究会議開く

予防医学に関する検査・検診の技術水準の向上と、検査・健診技術上の研究成果を発表、検討する第43回予防医学技術研究会議が2月27、28日の2日間にわたって鳥取市のとりぎん文化会館で開催された。

研究会議には、予防医学事

業中央会傘下の全国35都府県支部の検査技術担当者や関係者ら約200人が参加した。

研究会議は「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、学校心臓検診、検査技術、内臓脂肪症候群、健診技術、保健指導、がん検診、生理機能検査など9部門、49題の研究発表が行われた。フォーラムディスカッション「特定健診実施上の工夫」、ミニシンポジウム「乳がん検診」、「特定保健指導」が行われた。

このうち、フォーラムディスカッション(座長 山根則幸)予防医学事業中央会常任技術委員)では、特定健診実施上(健診会場)の問題点(茨城)、「健診受付システム」導入に関する考察(名古屋)、「特定健診の検討(名古屋)」、「実施した特定健診の検討(名古屋)」、「心電図所見と特定健診項目の関連性(愛媛)」、「特定健診における心電図検査と選定項目との関係(栃木)」が報告された。

また、ミニシンポジウム「乳がん検診」(司会 米澤慎悦)岩手県予防医学協会部次長、助言 坂佳奈子(本会医師)では、巡回マンモグラフィ撮影の現状(鳥取)、離島における視触診併用超音波検査による検診(東京)、超音波検診の実施率向上をめざした取り組み(岩手)などが報告された。

本会では、毎年、本会の健康診断に従事している医師や関連スタッフによるドクターミーティングと、看護師や関係スタッフによるナースミーティングをそれぞれ開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めるとともに、健診の効率化や精度の向上を図っている。

去る3月7日に行われたドクターミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、北川照男(巡回健診における健診項目の誤記の防止(神奈川県))と特定健診導入による各種検診受診率の比較(鳥取、実施した特定健診の検討(名古屋)、心電図所見と特定健診項目の関連性(愛媛))、特定健診における心電図検査と選定項目との関係(栃木)が報告された。

また、2007年1月より「プライバシーマーク」を取得し、使用している。このことから、今後も継続してプライバシーマークを使用することとなった。

本会では、今後も個人情報適切に取扱い、適切な運用体制を継続的に改善し、本会を利用される方々や社会の信頼に添えていきたいと考えている。

原田研介は、小児循環器の第一人者として、小児の疾病や障害の調査、研究、診断、治療に多くの業績をあげた。

また、学校心臓検診でも大きな足跡を残し、心臓病の子どもたちの予後の改善に大きな成果をあげた。ご冥福をお祈りする。

研究会議には、予防医学事業中央会傘下の全国35都府県支部の検査技術担当者や関係者ら約200人が参加した。

研究会議は「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、学校心臓検診、検査技術、内臓脂肪症候群、健診技術、保健指導、がん検診、生理機能検査など9部門、49題の研究発表が行われた。フォーラムディスカッション「特定健診実施上の工夫」、ミニシンポジウム「乳がん検診」、「特定保健指導」が行われた。

本会では、毎年、本会の健康診断に従事している医師や関連スタッフによるドクターミーティングと、看護師や関係スタッフによるナースミーティングをそれぞれ開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めるとともに、健診の効率化や精度の向上を図っている。

去る3月7日に行われたドクターミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、北川照男(巡回健診における健診項目の誤記の防止(神奈川県))と特定健診導入による各種検診受診率の比較(鳥取、実施した特定健診の検討(名古屋)、心電図所見と特定健診項目の関連性(愛媛))、特定健診における心電図検査と選定項目との関係(栃木)が報告された。

また、2007年1月より「プライバシーマーク」を取得し、使用している。このことから、今後も継続してプライバシーマークを使用することとなった。

本会では、今後も個人情報適切に取扱い、適切な運用体制を継続的に改善し、本会を利用される方々や社会の信頼に添えていきたいと考えている。

原田研介は、小児循環器の第一人者として、小児の疾病や障害の調査、研究、診断、治療に多くの業績をあげた。

また、学校心臓検診でも大きな足跡を残し、心臓病の子どもたちの予後の改善に大きな成果をあげた。ご冥福をお祈りする。

ドクターミーティング ナースミーティングを開催 本会

本会では、毎年、本会の健康診断に従事している医師や関連スタッフによるドクターミーティングと、看護師や関係スタッフによるナースミーティングをそれぞれ開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めるとともに、健診の効率化や精度の向上を図っている。

去る3月7日に行われたドクターミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、北川照男(巡回健診における健診項目の誤記の防止(神奈川県))と特定健診導入による各種検診受診率の比較(鳥取、実施した特定健診の検討(名古屋)、心電図所見と特定健診項目の関連性(愛媛))、特定健診における心電図検査と選定項目との関係(栃木)が報告された。

東京都予防医学協会年報 2009年版 第38号 (平成19年度活動報告) ができました

「年報」は、本会のホームページ <http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/> からダウンロードしていただけます。

●各分野の執筆者とテーマは下記のとおりです(敬称略)●

【I 学校保健】
心臓病検診 「心臓病検診の実施成績」 浅井利夫(東京女子医科大学教授)
腎臓病検診 「腎臓病検診の実施成績」 村上睦美(日本医科大学名誉教授)
糖尿病検診 「小児糖尿病検診の実施成績」 浦上達彦(日本大学医学部講師)「小児期発症2型糖尿病の長期予後改善のために—治療中断の予防」 大和田操(女子栄養大学大学院教授)
脊柱側弯症検診 「脊柱側弯症検診の実施成績」 大塚嘉則(国立病院機構千葉東病院名誉院長)
小児生活習慣病予防健診 「小児生活習慣病予防健診の実施成績」 村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
貧血検査 「貧血検査の実施成績」 前田美穂(日本医科大学教授)

「鉄と貧血」 福永慶隆(日本医科大学教授)
寄生虫検査 「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」/「海外長期滞在者の帰国時健診における寄生虫検査成績の検討」 本会検査研究センター
【II 地域・職域保健】
定期健康診断・基本健康診査 「定期健康診断の実施成績」 須賀万智(聖マリアンナ医科大学准教授)「住民健診の実施成績」 本会成人保健部
特殊健康診断 「特殊健康診断の実施成績」 三輪祐一(本会総合健診部)
保健指導事業 「保健指導の実施成績」 本会健康増進部
人間ドック 「人間ドックの実施成績」 三輪祐一(本会総合健診部)
超音波検査 「超音波検査の実施成績」 本会検査研究センター

クリニクの外来診療 「クリニックの実施成績」 小野良樹(本会保健会館クリニック)
【III 母子保健】
妊婦甲状腺機能検査 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」 百瀬尚子(本会内分泌科)
性感染症検査 「東京におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の実施成績」/「性感染症の最近の動向」 松田静治(性の健康医学財団理事長)
新生児スクリーニング検査 「先天性代謝異常症の新生児スクリーニング成績」 本会検査研究センター「先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の新生児マス・スクリーニング実施成績」 杉原茂孝(東京女子医科大学教授)「先天性副腎過形成症の新生児マス・スクリーニング成績」 小野真(東京医科歯科大学)

【IV がん検診】
胃がん検診 「胃がん検診の実施成績」 本会放射線部
肺がん検診 「肺がん検診の実施成績」 高梨智子(本会画像診断科)
「東京から肺がんをなくす会」の検診 「東京から肺がんをなくす会の実施成績」 大松広伸(国立がんセンター東病院医長)
大腸がん検診 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績」 本会検査研究センター
子宮がん検診 「子宮がん検診(グリーンルーム)の実施成績」 伊藤良彌(本会婦人検診部)
東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診 「子宮がん細胞診の実施成績」 長谷川壽彦(本会検査研究センター)「子宮がん精密検診センターの実施成績」 塚崎克己(慶應義塾大学医学部准教授)
乳がん検診 「乳がん検診の実施成績」 坂佳奈子(本会乳腺科)
東京産婦人科医会との協力による乳房検診 「乳房2次検診センターの実施成績」 坂佳奈子(本会乳腺科)

【V 生活環境検査】
生活環境検査 「生活環境検査の実施成績」 本会検査研究センター「水環境中のウイルスの挙動と生活環境を介したノロウイルスの感染事例」 矢野一好(本会学術委員)
【VI 研究・健康教育活動】
学会、研究会での研究発表/健康教育活動/2007年度の本会の概要

